

平成 29 年度(応募作品 20 点)

◆佐々木喜善賞(遠野文化奨励賞)

◇【受賞者】 小説 都築隆広(山梨県中巨摩郡) / 原案・イラスト 十風高志(長野県茅野市)

【受賞作品】 小説イラスト「長者屋敷の寝られぬ座敷」

【選考理由】 佐々木喜善が幻想小説家であったことを想起させてくれるファンタジー小説で、マヨヒガやザシキワラシ、カッパなどをモチーフにして佐々木喜善や『遠野物語』との係わりをきちんと押えながら、現代の遠野を舞台に若々しい感性で魅力のあるキャラクターづくりに成功している。文章もしっかりしていて遠野の不思議さが見事に活写され、読者を引き込む面白さでは応募作品の中で群を抜いている。

◆佐々木喜善賞「佳作」

佐々木喜善賞には通常「佳作」はないが、今回の応募作品の中で最後まで選考に残り優れた作品であった下記の2点に対し、今回のみ特別に佳作を設けて表彰する。

◇【受賞者】 辻村博夫(岩手県奥州市)

【受賞作品】 随筆「飢餓の記憶 遠野物語遠景」

【選考理由】 飢餓の記憶は、飽食の現代においてショッキングなものであり、『遠野物語』の原点として忘れてはならないものであることを気付かせてくれた作品である。

◇【受賞者】 立花 紘(岩手県遠野市)

【受賞作品】 映像「遠野 馬好き物語」

【選考理由】 じっくりと時間をかけて丁寧に撮影されているドキュメンタリーとして好感が持てる。地元民の温かな眼差しで捉えた馬と人の暮らしに心和むものがあつた。

平成 30 年度(応募作品 78 点)

◆佐々木喜善賞(遠野文化奨励賞)3点

- ◇【受賞者】 多田欣也(千葉県八街市)
【受賞作品】 少年少女向絵物語「石倉丁奇譚」
【選考理由】 児童文学者の坪井譲治の作品を彷彿とさせる傑作であり、挿入絵もすばらしい。古い遠野の暮らしぶりをよく踏まえているところも評価できる。
- ◇【受賞者】 沖義裕(東京都小金井市)
【受賞作品】 論文「遠野における森林の変遷」
【選考理由】 論文としての視点が面白く、データも丹念に集めている。『遠野物語』と遠野の森林利用を関連させた考察は貴重なものである。
- ◇【受賞者】 菅野麻衣子(宮城県仙台市)
【受賞作品】 絵画「スターゲイザー」
【選考理由】 表現として魅力があり、『遠野物語』のオシラサマの物語を独自の解釈で再構成している。少女が初めて恋するものは必ずしも人間の男ではないことに気付かせてくれ、『遠野物語』を新たな視点で読み直せる可能性をも示してくれた。

◆佐々木喜善賞「特別賞」

佐々木喜善賞には通常「特別賞」はないが、今回の応募作品の中で最後まで選考に残り優れた作品であった下記の1点に対し、今回のみ特別賞を設けて表彰する。

- ◇【受賞者】 水口優明(岩手県盛岡市)
【受賞作品】 論文「佐々木喜善とハリストス正教会」
【選考理由】 佐々木喜善の新たな側面を知る上で興味深い。本人も決定的なところにたどり着いていないと述べているように未完なところがあったが、今後の佐々木喜善研究のさらなる発展を期待する。

令和元年度(応募作品 79 点)

◆佐々木喜善賞(遠野文化奨励賞)3点

- ◇【受賞者】 多田 欣也(千葉県八街市)
【受賞作品】 絵画「遠野の石碑」
【選考理由】 遠野の石碑を描いた細密画で、市内各町 20 以上の石碑をレイアウトした力作。文化財史料記録としての価値と、美的価値を両立している。圧倒的な能力と時間をかけた後世の遠野に残しておくべき作品。
- ◇【受賞者】 鈴木 修(宮城県大崎市)
【受賞作品】 年譜「-佐々木喜善の世界を知る-「より詳しい年譜(第一次稿)」作成を通して」
【選考理由】 32 冊の佐々木喜善研究から年代、日付順に並べた 333 ページの年譜。「佐々木喜善賞」に相応しい作品で、作者の労力、志を大きく評価したい。
- ◇【受賞者】 岩館 尚文(岩手県遠野市)
【受賞作品】 切り絵「昇天」
【選考理由】 遠野市で活躍する切り絵作家の作品。『おしらさま』を題材にした切り絵で、卓越した技術、申し分ない構成で、エロス表現が素晴らしい。

◆佐々木喜善賞「奨励賞」2点

佐々木喜善賞には通常「奨励賞」はないが、今回の応募作品の中で最後まで選考に残り優れた作品であった下記の2点に対し、今回のみ奨励賞を設けて表彰する。

- ◇【受賞者】 平山 将万(埼玉県東松山市)
【受賞作品】 エッセイ「遠野の民話から見えるもの」
【受賞理由】 遠野の「天人子」「開慶水」「古屋の漏り」を取り上げ、東北人の精神性を論じた作品。17 歳の高校生の作品であり、新鮮な感じがある。高校生の作品としては力作である。
- ◇【受賞者】 内田 竜嗣(千葉県柏市)
【受賞作品】 かるた「遠野あそび」
【受賞理由】 『遠野物語』を題材にしたカルタ。オリジナリティのある画で、ギャグセンスがある力作。遊びながら『遠野物語』を学べるおもしろい作品である。

令和2年度(応募作品 105点)

◆佐々木喜善賞(遠野文化奨励賞)3点

◇【受賞者】 桧山真一(大阪府高槻市)

【受賞作品】 論文「遠野郷の9日間－佐々木喜善、伊能嘉矩、そしてニコライ・ネフスキイ」

【受賞理由】 ニコライ・ネフスキイが遠野に滞在した9日間を軸にし、佐々木喜善との交流を描いたもの。遠野とネフスキイの関わりに着目した点にオリジナリティが高く、丁寧に調査された内容も資料的に面白く貴重である。

◇【受賞者】 北林佐和子(大阪府大阪市)

【受賞作品】 小説「老人性座敷わらし」

【受賞理由】 認知症をテーマにしたサスペンス小説。座敷わらしを組み合わせることで、現実とフィクションの狭間を上手く表現している。サスペンスとしての怖さがあり、著者の人間に対する洞察力がうかがわれる。

◇【受賞者】 山崎安奈(山形県鶴岡市)

【受賞作品】 アート漫画「山伏御大事・オシラサマ」

【受賞理由】 オシラサマや河童などの民話世界を参照しながら、里山伏と人々の人間模様を描いている。時代考証や民俗学的考証も正確に書かれており説得力がある。リアリティと物語が両立している非常に完成度の高い作品。

◆佐々木喜善賞「奨励賞」

佐々木喜善賞には通常「奨励賞」はないが、今回の応募作品の中で最後まで選考に残り優れた作品であった下記の1点に対し、特別に奨励賞を設けて表彰する。

◇【受賞者】 石橋直樹(神奈川県藤沢市)

【受賞作品】 論文「ザシキワラシ考」

【受賞理由】 ザシキワラシに対する関心を入りに、信仰の起源を先行研究と時代からのヒントの両面から追って展開した文化論。その手法と文体も、18歳とは思えない重厚なものである。

◆佐々木喜善賞「家族賞」

佐々木喜善賞には通常「家族賞」はないが、毎年家族で作品に応募し創造の楽しさを伝えてくれている下記のご家族に対し、特別に家族賞を設けて表彰する。

◇【受賞者】 坊垣香理、坊垣^{ここみ}心都、坊垣^{たゆみ}妙泉、坊垣^{まきみ}柁光(岐阜県岐阜市)

【受賞作品】 アート絵画 坊垣香理 「やまんば」、坊垣^{ここみ}心都 「てんぐ」、坊垣^{たゆみ}妙泉 「かくれたかっぱ」、坊垣^{まきみ}柁光 「おもちを食わえたきつね」